

令和3年度 丹波篠山黒豆情報

第1号 令和3年7月28日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・NOSAITひょうご丹波篠山事務所・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(令和3年7月27日丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長(cm)	主茎節数(節)
令和3年	44.6	12.1
平年(過去10カ年平均)	36.5	10.9
平年比	122%	111%
令和2年(参考)	36.7	10.7

- 主茎長は平年(過去10ヶ年平均)比122%、主茎節数は平年比111%で平年を大きく上回りました。
- 6月以降の平均気温は、高低差はあったものの並～高温傾向で推移しました。また、周期的な降雨もあったため、初期生育は順調に進んでいます。
- ほ場による生育差は、平年に比べて小さくなっています。

【病害虫】(令和3年7月27日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率(%)	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和3年	0.00	0.01	8.33	8.33	0.00	0.00
平年(過去10カ年平均)	0.68	0.02	0.59	11.16	0.03	0.01
平年比	0%	50%	1,412%	75%	0%	0%

- 茎疫病などの立枯性病害の発生は見られませんが、ダイズモザイクウイルス(アブラムシ類が媒介)の感染による縮葉症状が多く、ほ場で見られます。
- サヤムシガの発生は平年に比べてやや少ない傾向ですが、ノメイガ類の発生が多く、一部のほ場に発生が集中しています。
- ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺は、7月上旬から確認されています。

【今後の対策】

1 適期灌水

- ①梅雨明け（7月17日ごろ）以降、高温・乾燥傾向が続いているため、土壌水分が低下しています。特に、開花期以降（8月上旬）は水分を必要とするため、土壌に白乾亀裂が生じるなど著しくほ場が乾燥する前に灌水しましょう。
- ②日中の暑い時間帯の灌水は避け、夕方または早朝に実施します。なお、長時間の滞水は茎疫病発生リスクの増大や根傷みする恐れがあるため、水は溜めたままにしないよう注意しましょう。

市内6カ所に土壌水分センサーを設置し、端末のアプリを利用して確認ができます。メールマガジン等でも配信予定ですので、灌水判断の参考にしてください。

2 排水対策

- ①排水性の悪いほ場では、湿害による生育遅延や根腐れなどを引き起こす恐れがあります。定期的に排水溝の点検・手直しを行い、排水性をよくしましょう。

3 追肥の施用

- ①生育後半の窒素を補い、生育を促すために追肥を行きましょう。
追肥量の目安（慣行型） 8月中旬 NK化成2号 40kg/10a 施用
（JA丹波ささやま「丹波篠山黒豆栽培こよみ」より）

4 倒伏防止

- ①強風による倒伏を防ぐため、支柱を立てるなど株を保護しましょう。

5 病虫害防除

（1）虫害防除

- ①ノメイガ類は茎の内部を食害し、茎葉の折損や生長点に潜り込んだ場合は芯止まりを引き起こすため、ほ場内をよく観察し、適期に薬剤防除しましょう。
- ②開花期から莢が伸長・肥大する8月中旬～9月中旬は、莢を加害する害虫に注意し、定期的に薬剤防除を実施しましょう。（カメムシ類、フタスジヒメハムシなど）

（2）病害防除

- ①茎疫病など立枯性病害対策のため、ほ場の排水対策を徹底するとともに、薬剤防除を実施しましょう。できるだけ発病前または発病初期に株全体に十分かかるように散布しましょう。
- ③立枯性病害の発病株は抜き取りし、ほ場外に持ち出して処分しましょう。

実とりとエダマメとでは使用可能な農薬の種類や時期が異なるため、栽培こよみで必ず確認し、ラベルに記載されている使用基準に従い防除を行きましょう。

【参考：気象データ※丹波篠山市消防本部気象データ参照】

